

時間割番号	K27102	科目名	平和学	単位数	2
担当者	清水 文裕				
開講学期	2017年度 前期	開講年次	4	授業方法	講義
ナンバリング	0C0-1810				

コア・アクティブ・ラーニング科目群	
コア・アクティブ・ラーニングのキーワード	

概要	(a) 平和を考えることは、命の大切さを見詰め直すことです。科目名にサブタイトルを付けるなら「命－人間が人間らしく生きるために」。原子爆弾は人間と都市にどのようなことをもたらしたのかを事実に基づいて科学的に検証し、核時代をどう生きるかを一緒に考えましょう。 (b) 核分裂の発見・核兵器の出現によって、国際社会はどのように変化したのでしょうか。アジアや米国の原爆観、冷戦中と冷戦後の世界、原子力発電の課題など、多角的な学びで考えを深めましょう。
教育目標との関連	
到達目標	(a) 下記の「3つのチカラ」をこの授業で磨いてください。 ①過去の出来事を現在の日本や世界に結び付けてとらえる力 ②歴史を自分のこととして受け止める力 ③その意味を考察する力 (b) さらに、考えたことを他人に伝える力も高めよう。
評価方法	(a) 毎回の「記入用紙」60%、中間レポート20%、期末レポート20%。 (b) 「記入用紙」の比率を高くした理由は、1回1回の授業を大切にしたいから。その日の授業で学んだこと・考えたこと・意見などを毎回書いてもらい、プラス評価をして加算します。マイナス評価はしません。 (c) 最終評価は「伸びたか」「力をつけたか」を重視します。 (d) 試験はありません。
備考	
テキスト・教材・経費等	(a) プリントを配布します。 (b) 教科書は使いません。

授業計画	<p>第1回 きのご雲の下でどんなことがあったかⅠ 初期の手記を読んで考える(発見学修)</p> <p>第2回 きのご雲の下で…Ⅱ 被爆した少女の写真 どんなメッセージが聴こえますか(発見学修)</p> <p>第3回 原爆被災をどう受け止めるか～記録映画『ヒロシマ 母たちの祈り』を見て考える(発見学修)</p> <p>第4回 被爆地復興Ⅰ 雑草の芽吹きにあなたは感動したことがありますか？(自己省察学修)</p> <p>第5回 被爆地復興Ⅱ 「生きる勇気と希望の都市」の基盤を築いた初代公選市長(ペア・ワーク)</p> <p>第6回 被爆地復興Ⅲ 報道特番『ヒロシマを遺した男』。何を学びますか？(自己省察学修)</p> <p>第7回 被爆による人体影響～昭和20年代の産院についての証言を読む(ペア・ワーク)</p> <p>第8回 旧日本軍による住民虐殺と広島～アジアの原爆観(自己省察学修)</p> <p>第9回 米国スミソニアン論争～原爆投下国の原爆観(グループ・ディスカッション)</p> <p>第10回 核時代突入～核分裂の発見、第二次世界大戦終結、そして冷戦時代の世界(発見学修)</p> <p>第11回 冷戦終結。その意義と、終結後の国際政治を考える(グループ・ディスカッション)</p> <p>第12回 原子力の「平和利用」Ⅰ 福島原発事故の教訓・日本の原発政策の現状(ペア・ワーク)</p> <p>第13回 原子力の「平和利用」Ⅱ 低線量被曝の課題・原発ゼロをめざす国々(課題解決学修)</p> <p>第14回 核時代をどう生きるか。記録映画『ナガサキの少年少女たち』を見て考える(自己省察学修)</p> <p>第15回 原爆と人間～あなたと同世代で被爆した人の証言、ローマ教皇の平和アピール(自己省察)</p> <p>【注】ニュース連動型とするためや皆さんの到達度によって、授業計画を変更することがあります。</p>
アクティブ・ラーニングの授業形態	自己省察学修、発見学修、ペア・ワーク
準備学習(予習・復習)	(a) 授業中は聞きっぱなしでなく、メモを取ろう。そして、その日のうちにまとめの作業をしよう。教材を読み直したら、授業の時に気づけなかった発見がきつとあります。それを次回の「記入用紙」に書いてください(成績の評価対象)。復習に少なくとも1時間半は必要です。 (b) 皆さんが書いた「記入用紙」を教材として使ったり、ディスカッションを行ったりして理解を深めてもらいます。積極的に参加して、あなたの力を伸ばしましょう。 (c) テレビや新聞などで①平和②戦争③国際政治④国際社会⑤人間の生き方への関心を高め、それに対する意見をまとめる習慣をつけましょう。日常的な予習によって、学びが必ず深まります。 (d) この授業の合言葉は「自学自修」です。学ぶ意欲を期待します。
免許・資格	
免許・資格の科目区分	